

号外!

「市トップは最初から歓迎」
 「議会の質問は事前につぶしている」
 「仰木の里の反対運動は 最強最大の敵」
 「反対しているのは住民ではなく一部の左翼・唯物論者」

まち連だより



特別号

これが幸福の科学学園の実態か？ ～学園副理事長が幸福の科学の集会で語った本音～

住民への説明と全く異なる驚きの発言

林雅敏副理事長が熱く語る

今年の1～2月にかけて幸福の科学学園が主催する住民への説明会が何度か開かれました。その中で学園側が説明していた内容とはかけ離れた実態が、このたび明らかにされました。

「週刊新潮」(6月30日号・23日発売)および「やや日刊カルト新聞」(6月25日号)や「ウェブ新聞」で報じられたところによれば、仰木の里での住民説明会で幸福の科学学園の理想を語っていた林雅敏副理事長が、住民への説明とは異なる本音を語ったとのこと。

(週刊新潮6月30日号より一部引用)

「母体である幸福の科学では6月18日に『教育事業成功大会』という催しがあり、衛星中継で全国の支部に流れました。その中で、学園の副理事長を務める人物が『大津で反対運動しているのは左翼思想を持った教育者、唯物論者たちである』などと発言したのです」とうとうと地元には牙をむいたわけだ。

(以下 やや日刊カルト新聞6月25日より引用)

滋賀県大津市の仰木の里での学園建設をめぐる住民の反対運動にあっている幸福の科学が6月18日、東京正心館で「教育事業成功大会」を開催。その映像を、全国の支部・精舎に中継しました。この中で、幸福の科学学園の林雅敏副理事長が、なんと仰木の里の反対派住民を「左翼」「唯物論者」呼ばわり。「最強最大の敵」とまで口走って、言いたい放題、信者の反感を煽りました。

■若き“宇宙伝道戦士”

那須校の「探求創造科発表会」のVTRが上映されました。登場した男女の生徒たちが、「世界伝道」への意気込みを熱く語ります。

「私達の使命は、やはり伝道なんです。伝道なんです！ 私は、この人生一生を主(大川隆法総裁)に捧げていきたいと思ひます。そしてアメリカ伝道や世界伝道を成功させ、宇宙にも広がってきたいと思ひます」(男子生徒)

直後、喜島克明校長が「植福(お布施)の方、是非宜しくお願ひします」と挨拶してました。幸福の科学学園の生徒たちを使って、伝道、伝道、そして布施のアピール。

■反対派住民は「左翼&唯物論者」

幸福の科学学園副理事長の林雅敏氏(幸福実現党政務会長)が登場して、地元住民の反対運動に晒されている仰木の里での関西校開設計画について話し始めると、一気に好戦的な空気になりました。

「過去、行基菩薩(霊)から、滋賀で学校を作るときは反対運動が起こるので気をつけなさいというご注意をいただひいて、実はそのとおり去年の10月から反対運動が起こっています。反対ネットワークという得体のしれないものが立ち上がって、ずっと妨害を続けている。しかし住民の方々が反対運動をしているわけではない。誰が反対しているかという、左翼思想家なんです。左翼の人たち。学校関係、教育関係に携わっていた人たち。教育界の中にある左翼勢力が、いやがってるんです。なぜいやがっているのか。幸福の科学のこの教育の思想自体をいやがっている。彼らの思想は唯物論です。しかし私たちの教育は、仏心を尊ぶ心、信仰を基軸に置いた教育を関西校でももっと広げる。これに対して反応しているのが、実は反対運動の実態なんです」(林氏)

本紙では反対運動の初期段階から現地取材も交えながらレポートしてあります。しかし取材していても、特定のイデオロギーや党派組織の影響を感じません。

(裏面に続く)

■市議会での議員質問を潰した

(やや日刊カルト新聞引用続き)

さらに林氏からは、こんな発言まで飛び出しました。

「市議会とかで質問するのは事前にキャッチできるんです。これは必ず潰します。前回もある党とある党の方が言われてましたけど、完全にそれは潰しております」(林氏)

宗教団体の運営や信仰の内容は憲法で保障された「自由」かもしれませんが、しかし宗教団体が外界の民主制度の機能を潰すことは、憲法で保障されていないどころか、むしろ反社会的行為ではないでしょうか。

■「市のトップ」とも仲良し?

「役所の主要な幹部の人々は、学園に対して非常に好意的に考えていただいています。大津市のトップの方も、何回もお会いさせていただいておりますけども、最初から幸福の科学学園ができることに関しては喜ばしいことだと、ずーっと言っていた方がトップの方にいらっしやいます。こないだお会いしたときにも、“林くん、大変やな。産みの苦しみだと思ってがんばれや”と慰められながらですね(笑い)。“まあ何でも反対する人は反対するんだ。もし自分の家の外に広い土地があるんだしたら、そこに建ててくれ。その時には私が住民一人ひとりに説明する”とまで言っていた方が実はいらっしやいます」(林氏)

役所の幹部や「市のトップ」が幸福の科学を優遇しているとなると、幸福の科学だけではなく市までも民主制度を踏みこみになっていることとなります。

(紙面の都合上、一部省略しています。全文は<http://dairycult.blogspot.com/>を参照下さい)

問われる大津市の自浄能力 早急な対応を求む

【大津市への要望】

- この問題を市としてどう受け止めて、対処するのか?
- 事実関係の存否を明らかにするべく、第三者機関の調査委員会の設置を強く要望する。
- このような発言をする反社会的団体の学校設置を認めないよう強く要望する。

まち連が大津市に申し入れ

幸福の科学学園は、学校建設に向けて、大津市議会の議事運営に影響力を持ち、大津市のトップ並びに幹部、市議会議員などに対し、工作および癒着があるかのような発言をしています。

もし議会運営や大津市長への疑惑が事実であるとするならば、大津市の責任は重大です。逆に虚偽の発言であれば、大津市に対する名誉毀損ともいえるでしょう。

そこで仰木の里まちづくり連合協議会(まち連)は6月23日、大津市に対し、この発言問題について申し入れを行いました。その席には複数の市議会議員も同席しました。窓口である市民部は「まずは林副理事長と大津市長に真偽を正した上で、その後の対応を検討する」とし、また、「疑義があれば、真相が明らかになるまで、関係各部署に中高層建築のプロセスをストップするよう働きかけてほしい」との要望に対しては、「市民部としてとめる権限はないが、そういう意見があったことを伝えることは出来る。」と述べました。

<まち連主催 緊急学習会のお知らせ>

日程：2011年7月10日(日)

場所：北部地域文化センター 大津市堅田2丁目1-11

(駐車場・託児所用意しています)

第1部(10時～)：

講演「子どもの人権、教育、宗教(仮称)」

対談「新宗教と教育(仮称)」

第2部(14時～)：

「幸福の科学とはどういう団体か? ～その反社会性を考える～(仮称)」

基調報告と各事例報告(予定)



仰木の里まちづくり連合協議会(略称まち連)は、建設予定地周辺10自治会が集まり、幸福の科学学園建設をストップし、地域のまちづくりを考えようという趣旨のもと2011年4月に結成されました。

まち連参加自治会： 里東一丁目自治会、里東二丁目自治会、里東五丁目自治会、里東六丁目自治会、里東七丁目自治会、コモンステージ自治会、里南自治会、湖都が丘自治会、北雄琴自治会、里東住民自治会 以上10自治会